

せっかち 園長の ひといごと

2016、7、19

認定こども園あかみ幼稚園・メイプルキッズ 統括園長 中山昌樹

本日は、1学期の終業式でした。

1学期って4月には、希望に満ちて順調にスタートしますが、3学期までの1年間を見通すと、子どもにとっても保育者にとっても（もしかしたら、保護者の皆さんにとっても？）、溜めの時期なのかもしれません。溜め、というのはどの学年であってもそうですが、2学期後半から3学期に「なんかこの頃、子どもたちが一段と成長した気がするねー」と保育者同士で話題になる状況の、まさにその「一段と成長・・・」のための、溜めなのですね。

溜めの時期には、子どもたちの目立った成長（際立った変化）が、少ししか見えないかもしれません。そのため保育者たちも、自分たちの保育がうまく行っているのかどうか、時には不安に、そして重苦しく思うこともあります。

ですが、どの学年の子どもたちも、10月後半くらいから不思議に思えるほど、目に見える成長を見せ始めます（そこには、個人差があるので、我が子とよそのお子さんを比べないでくださいね）。溜めの時期・・・実は、大切なのですね。

森の木々や小さな植物たちには、ある季節に（例えば冬）成長を溜める時期があります。まったくと言っていいほど成長が止まっているように見えても、その時期に次の成長を溜めているのです。人間の子どもの成長も、その意味では同じだと思うのです。成長のカーブを図で示すと、一直線の右肩上がりではなく、時には線が平らに、そして時には下降線を見せることもある（例えば、赤ちゃん返り）のが、リアルな成長の姿ではないでしょうか。



我が子の成長を、何年も先の見通しをもって見守ることは、難しいことです。さらに、よそのお子さんと、同じようには成長しないので、その難しさは、

なおさらです。不安になったら、施設長（新井）、副園長（長島）などなど、みな保育の専門家ですので、ぜひ頼ってくださいね（いざとなったら、カウンセラーもいます）。そして何度も同じことを言いますが、今だけです、子育てを楽しんでください！

初めの話題です。ゲームについて・・・

以前の4月号で、子どもとスマホについて話題にしました。今回は、スマホに近くて、やはりリテラシー（使い方、付き合い方）が必要な、ゲームについてお伝えします。

・・・ちょっと前の話ですが、あるところでママ同士が「子どもとゲームについて」話し合いをしている様子を、間接的に知りました。そこでは、ちょっと、私的には驚きの話し合いが行われていたようです。以下それらを、断片的に紹介します。

*子どもと約束するなど、時間を制限してゲームを使わせるのは、「無理！」・・・だそうです。

*さらに、「大人でも止められない、面白いから」・・・。

*あるご家庭では、ゲームをさせない“いい方法”があるとか。それは、お風呂掃除とかのお手伝いをさせ、そのたびごとにおこづかいを与える（お金を与える）・・・そしてなんと、宿題をした時にも、おこづかいを与える。

*このような“いい方法”のおかげで、このご家庭では、お子さんがゲームをあまりやらないそうです・・・このやり方に、複数の方が「なんて素晴らしいやり方！」という感じで、感心していたそうです。

まだまだいろいろな話がされていたようですが、とりあえず今回は、ここまで。皆さんは、どうお考えですか？ といっても、小さいお子さんの保護者の方には、ゲームとの付き合い方なんてまだ考える必要がない、という方もいらっしゃるかもしれませんが。

子どもの成長発達あるいは保育の“専門家”（一応そうだと自負しています）として私は、次のように考えます・・・公共の場などで、我が子が静かにしてられるようにゲームが必要、という向きもあるのかもしれませんが。それもそうかな、と思うのですが・・・

①ゲームが子どもの脳の発達にどのような影響を与えるかなど、最新の研究結果は知っておいた方がいい。

「脳トレ」で有名な川島隆太先生（東北大学）のお話から→

②お手伝いやったらおこづかい・・・たまにはいいけれど、これはお金が欲しいからその家事をやるという「条件反射」。
これは動物が芸をやったらエサをもらえるのと同じです。
要するに、教育ではないのですね・・・ましてや宿題をやるのに、このやり方がいいのかどうか、親として考える必要がある。

【スマホ、ゲームについて】

最近電車の中などで、赤ちゃんにスマホを預ける親がいるけれど、絶対やめた方がいい。 スマホやゲームは、記憶を消してしまう消しゴムのようなもの。 小学生以上だと、デジタルゲームをやることは、屋間に学校で勉強した成果が、台無しになる行為。

また、ここで思い出すのは、あかみ幼稚園の保護者の方が、懇談会についてくる小学生の兄弟がホールでゲームをやるのをやめさせたい、という思いから

- a.希望する小学生は、託児の幼児のお世話係をやる
- b.このお世話係をやりたくない小学生は、ホールで静かに読書を楽しむ

という選択肢を考えたことでした・・・すばらしい！ 決して他の園がどうということではなく、私は、このような考え方で子育てをする保護者の方がたくさんいる、あかみ幼稚園の園長でよかったです！



さて、みんなが「遊び」と言うけれど…

最近、2020年・新大学入試制度 ⇔ 学習指導要領改訂 ⇔ 遊び保育 (*) という一連の国の政策もあり、ほとんどの園が「遊び」が大切だと言います。いいことです。

しかし「遊び」と言っても、その中身は実にいろいろ。ここでは、メイプルキッズ・あかみ幼稚園の保護者の皆さんに「遊び」の目利きになっていただきたいと考え、何が正真正銘の「遊び」なのか、お伝えしたいと思います。

正真正銘の「遊び」とは・・・

①その遊びを、子ども自身がやり始めたか

遊びの最大のポイントは、自主性です。名前だけ「〇〇遊び」で、先生に言われてやらされているのは、本来の遊びではありません。世の中には結構、名前だけ「〇〇遊び」というのがあるようですね。例えば、文字遊び、数遊び、音楽遊び、体育遊び・・・これらが本当の遊びなら、いいのですが。

②その遊びの中で、子ども自身が自分を抑えたり、試行錯誤しているか

好き勝手やるのが遊びではありません。例えば、お店屋さんごっこのイメージが友だちと食い違い、けんかしそうになるけれど、遊びを続けるために、我慢したり、相手を説得したり・・・遊びって、けっこうキビシイのです。

(*) 改めて・・・

【2020年・新大学入試制度】

どれだけの知識を記憶したかではなく、得た知識をどう使えるかが試される

【学習指導要領】

小・中・高等学校に関わる国の指針・・・アクティブ・ラーニング（積極的な学び）がキーワード

【遊び保育】

アクティブ・ラーニングの土台となる幼児期の「学び」 イコール「遊び」

③たくさんの遊びの中に、子ども自身が「もっとこうしたい」と願って、発展し、持続し、伝承する遊びがちゃんと根付いているか

例えば『物を作って、それを使って楽しむごっこ遊び』、『(鬼ごっこやドッチボールのような) ルールのある遊び』は、先生に言われてではなく、子どもたち自身が「もっと、もっと!」と続ける遊びです。一日で終わってしまうような遊びも子どもにとって楽しいものですが、その中にある、自ら持続する遊びが、教育的に価値のある遊び。年長・5歳児だと、時には1週間以上遊びが続きます。そしてそのような遊びは、結果として、たくさんの育ちを子どもたちにもたらします。

④子ども自身がその遊びをやりたくなるために、保育者が陰ながらのやるべきことをやっているか

今の子どもは、ただ放っておいても遊べるわけではありません。子ども自らやりたくなる本来の遊びのために、実はものすごくたくさんのことを、保育者たちは陰ながらやっているのです。例えば、レストランごっこが次の日も発展するように、新たなメニュー(例えばパスタ料理)が生まれることを期待して、毛糸を出しておく。あるいは、海賊ごっこが活性化することを願って、海賊が出てくる絵本を読み、その本が見えるところに置いておく。ときには保育者自身が「製作コーナー」で美味しそうなお弁当を作って、お弁当屋さんのモデルを示す、などなど。

⑤保育者が陰ながらのやるべきことをやるために、保育や子どもの様子を記録しているか

例えば次の日の保育で、どのような素材や絵本を用意したらよいかを考える際、その日の子どもたちがどのように遊んでいたのかという、記録が役に立ちます。本園では「A その遊びの面白さは何か」「B そこで子どもが試行錯誤していることは何か」「C そこでの保育者の援助として考えられるものは何か」を毎日、記録に書いています。記録を活用することで、よりタイムリーなサポート・援助が可能になります。



最後に、0・1・2歳の保育が・・・さらに・・・

最後の話題は、メイプルキッズ。今までも、一人ひとりを大切にしたい保育を心がけてきましたが、今、保育者たちがチャレンジしているのは、さらに、不必要に待たせず、より一人ひとりのペースを大切にする保育、です。3・4・5歳のイメージだと、食事場面ではみんなと一緒に「いただきます!」がいいなと思うのですが、とくに0・1歳の子どもでは思った以上に一人ひとりのペースが違います。今回は紙面がないので、また次の「ひとりごと」で具体的な様子をお伝えしますね。私たちは常に、「保育の質」の向上にこだわります!